



東洋紡績富田工場ってどれだけ大きかったの？

このページも明治・大正・昭和（戦前）と時代は進み、今回のテーマは戦後の富洲原です。当時の経済白書が、「もはや戦後ではない」と表現した昭和31年までの写真の中から、大変興味深い物を見つけました。

下の写真は戦後の日本経済を支えた繊維産業の雄、東洋紡績富田工場の昭和27年頃の航空写真です。

当時の日本は長い戦争からの解放感とは裏腹に物資不足で毎日の生活用品にも事欠く状況でした。そのような中でも富洲原の人々は、いち早く繊維産業の活況とともに未来に明るい希望と期待で胸をふくらませ歩み出しました。そして、機械が「ガチャ！」と動くたびに万単位の金が入ると言われた「ガチャマン景気」

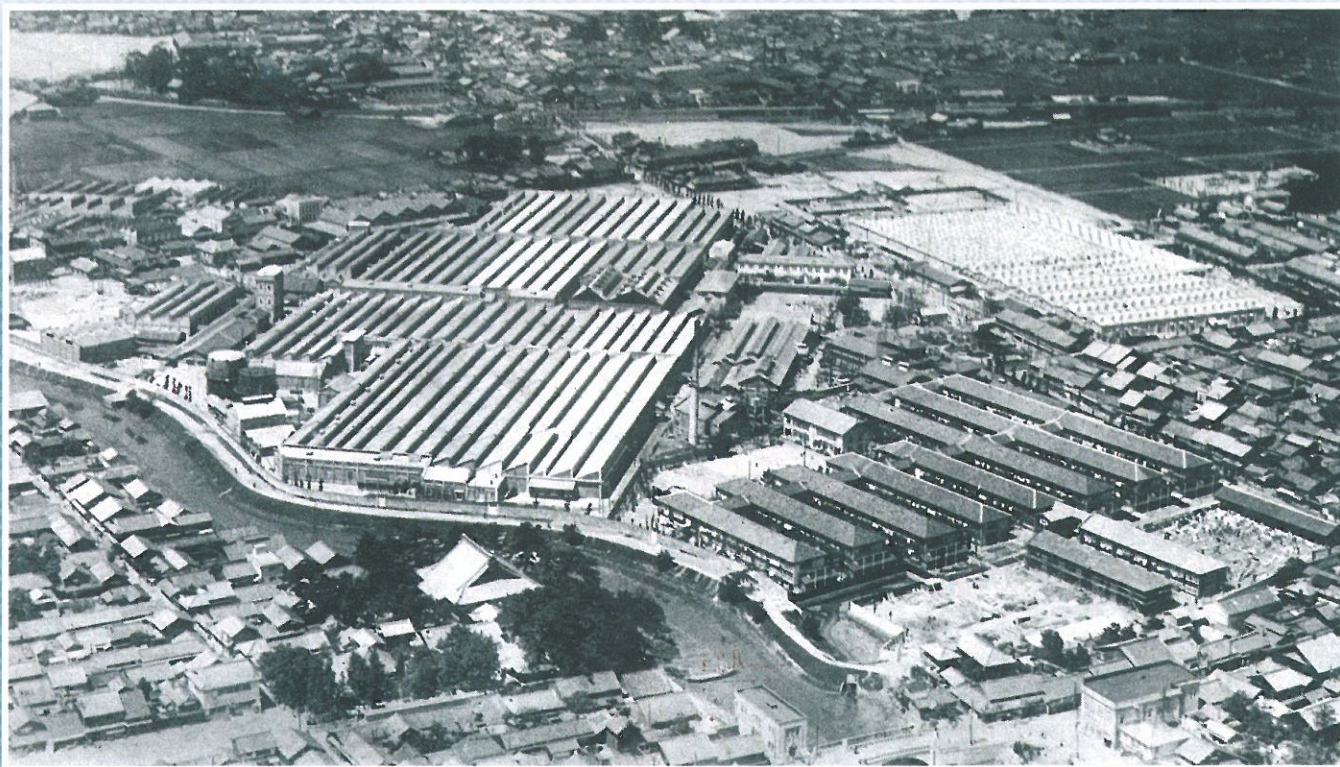
が到来し、まちに活気があふれました。

東京ドーム5個分に相当する25万平方メートルの工場敷地内には、学校をはじめ社員寮や美容院、食堂、共同浴場などが立ち並び、三岐鉄道本社前の引き込み線が国道1号を横断して赤レンガ倉庫にまで達していたことを懐かしむ人もいないのでしょうか？

写真手前の真ん中あたりに海運橋が見えます。運河（現在の水と緑のせせらぎ広場）と見比べていただくと、工場の敷地の広大さがよく理解できますね。

産業界の移ろいは激しく、時は流れ平成13年（2001年）には、工場跡地にジャスコ（現在のイオン四日市北店）がオープンしました。

飛行機ヨリ見タル東洋紡績富田工場（昭和27年頃）
写真提供 市内在住 南野 哲志さん



富洲原地区 R3/1/1現在

面積

2.04 Km²（市内24地区で最小）

世帯数

3,885 世帯

人口

8,558 人（男性 4,234人・女性 4,324人）